



## 平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月12日

上場取引所 札

上場会社名 健康コーポレーション株式会社  
 コード番号 2928 URL <http://www.kenkoucorp.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 瀬戸 健

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 香西 哲雄

TEL 03-5337-1337

四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	25,811	40.2	1,524	1,838.4	1,292	—	802	262.9
27年3月期第2四半期	18,411	101.0	78	—	△15	—	221	△84.8

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 760百万円 (198.9%) 27年3月期第2四半期 254百万円 (△82.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	6.36	6.35
27年3月期第2四半期	1.79	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	45,937	10,964	21.7
27年3月期	39,294	7,486	16.8

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 9,950百万円 27年3月期 6,601百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	2.50	2.50
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	—	9.18 ～9.66

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 1. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、平成27年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。  
 2. 年間配当金については、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。  
 3. 平成28年3月期 期末配当金については、連結配当性向18%～20%に基づく通常配当に、上場10周年を記念した連結配当性向20%の特別配当を加えた年間配当9円18銭～9円66銭を予定しております。また、その算定には、期中平均株式数(平成28年3月期第2四半期累計)を用いております。

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,130	53.8	5,004	137.4	4,676	140.2	3,052	86.5	24.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※1株当たり当期純利益の算定には、期中平均株式数(平成28年3月期第2四半期累計)を用いております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	127,436,000 株	27年3月期	123,536,000 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	0 株	27年3月期	0 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	126,339,222 株	27年3月期2Q	123,436,000 株

(注) 1. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、平成27年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。  
2. 株式数については、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 12

当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成27年11月19日(木)・・・・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

上記説明会のほかにも、当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年9月30日)における我が国経済は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いております。また、個人消費は総じてみれば底堅い動きとなっております。

このような経営環境の下、当社グループは、成長事業への投資と当社の最大の強みである広告宣伝を活かした販売支援によって成長が見込まれる事業領域へのグループ拡大を推進し、グループ全体が大幅に躍進いたしました。

売上高においては、RIZAP株式会社が運営するパーソナルトレーニングジム事業が牽引する形で大幅な増収となりました。RIZAPは、第2四半期会計期間に大型店4店舗(サテライト店からの転換1店舗含む)を出店した他、医療連携サービスや法人向けサービスの提供を開始するなど業容の拡大を進めた結果、8月、9月と2カ月連続で月間売上高の過去最高を更新し、9月には20億円(対前年同月比約2.2倍)に到達しております。

利益面においては、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに大幅な増益となり、四半期ベース(平成27年7月～9月)では、約15億円と過去最高の営業利益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高25,811百万円(前第2四半期連結累計期間は18,411百万円)、営業利益1,524百万円(前第2四半期連結累計期間は78百万円)、経常利益1,292百万円(前第2四半期連結累計期間は15百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は802百万円(前第2四半期連結累計期間は221百万円)となりました。

セグメント別の事業概況は、次のとおりであります。

#### (美容・健康関連事業)

美容・健康関連事業における最大の成長ドライバーであるRIZAP株式会社は、当社プロデュースによる積極的な広告宣伝活動が奏功し、新規獲得会員数を更に伸ばさせたことにより累計会員数は41,000人を超え、平成27年8月、9月と連続して月間売上高の過去最高を更新いたしました。また、RIZAPのサービスを生涯に渡ってご利用いただく取組みにより再度契約するお客様が増加傾向にあります。株式会社ジャパングヤルズ及び株式会社ジャパングヤルズSCは店頭やOEMの売上を伸ばし、株式会社エーエーディはグループ内の印刷物等の制作物の需要を積極的に取り込み、更に外部からの受注に向けて業容を拡大してまいりました。

この分野における当社通販事業におきましては、美容・スキンケアカテゴリの「どろあわわ」はクロスセルや卸販売が好調に推移し、機器・グッズカテゴリの「エステナードソニック」及び健康食品カテゴリの「ひとてまい」はキャンペーンが好調に推移しました。

この結果、美容・健康関連事業での売上高は14,300百万円(前第2四半期連結累計期間は9,330百万円)、営業利益は1,983百万円(前第2四半期連結累計期間は203百万円)となりました。

#### (アパレル関連事業)

アパレル関連事業は、マタニティウェアや出産内祝いギフト等を販売する株式会社エンジェリーベ、婦人服を企画・製造販売する株式会社馬里邑、婦人服及び紳士服を企画・販売する株式会社アンティローザ、婦人服を企画・販売する夢展望株式会社が事業を行っております。

株式会社エンジェリーベはマタニティ商品の販売が堅調に推移しましたが、為替の影響により原価率が上昇し、収益を圧迫してまいりました。今後、商品原価率を改善するため製品生産地の変更を行ってまいります。株式会社馬里邑は専門店・百貨店の販売が予算未達と厳しい状況となりました。今後、催事セール等による在庫削減と同時に新規販路開拓による売上高の回復を図ってまいります。株式会社アンティローザはリアル店舗販売の落ち込みをネット販売が好調に推移したことにより、トータルで予算達成となりました。

夢展望株式会社は当第2四半期連結累計期間におきましては、業績の回復基調には至っておらず、売上低迷状況から脱してはおりませんが、利益面におきましては依然として損失が発生している状況ではあるものの、コスト削減の効果等により、想定範囲内で推移いたしました。

この結果、アパレル関連事業の売上高は4,413百万円(前第2四半期連結累計期間は2,308百万円)、営業損失は186百万円(前第2四半期連結累計期間は42百万円の損失)となりました。

#### (住関連ライフスタイル事業)

株式会社イデアインターナショナルは住関連ライフスタイル商品の企画・開発及び販売を行っております。

同社における平成28年6月期第1四半期累計期間(平成27年7月1日～平成27年9月30日)の業績は、インテリア雑貨において、キッチン家電を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が好調に推移し、中でも「ホットプレート」は計画以上の売上を上げております。また、トラベル商品ブランド「ミレスト」は平成27年9月にオープンしたトラベルグッズセレクトショップの新業態「トラベルスタイルバイミレスト名古屋」も好調に始まり、「トラベルショップミレスト」5店舗もすべて好調に推移し売り上げを伸ばしており、売上高は1,445百万円(前年同期は1,365百万円)となりました。一方、利益については、卸売事業が伸び悩んだことの影響により営業損失3百万円(前年同期は48百万円の利益)となりました。

この結果、住関連ライフスタイル事業の売上高は3,074百万円(前第2四半期連結累計期間は2,597百万円)、営業利益は95百万円(前第2四半期連結累計期間は9百万円)となりました。

#### (エンターテイメント事業)

エンターテイメント事業は、SDエンターテイメント株式会社及び株式会社Xio等が事業を行っております。

SDエンターテイメント株式会社はGAME事業部において、平成27年5月に新規店舗として「ディノスパーク南福島店」を出店し、ビデオゲームの「鉄拳7」「Wonderland Wars」などのヒット作にも恵まれた他、閑散期にはクーポンを配布して再来場の促進を行いました。同社フィットネス事業部においては、法人契約が増加したこと、オリジナル物販商品のラインナップ拡大や新燃焼系サプリ等の販売強化を推進しました。また、見学者の入会率アップや退会率の引き下げなどの改善に取り組みました。同社ボウリング事業部においては、前期から推進しているボウリング教室を強化し、顧客の拡大を図りました。

株式会社Xioはグループ会社向けのシステム及びウェブサイト構築に加えて、スマートフォン向けアプリ開発を行ってまいりました。平成27年6月にサービスを開始したゲームアプリ『超銀河秘球 コズミックボール』は予算未達となりました。

この結果、エンターテイメント事業の売上高は4,441百万円(前第2四半期連結累計期間は4,482百万円)、営業損失は34百万円(前第2四半期連結累計期間は147百万円の利益)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて24.2%増加し、29,435百万円となりました。これは主として、現金及び預金が2,361百万円、受取手形及び売掛金が2,981百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて5.8%増加し、16,404百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて16.9%増加し、45,937百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて12.1%増加し、22,263百万円となりました。これは主として、短期借入金が1,374百万円、前受金が913百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6.4%増加し、12,710百万円となりました。

この結果、総負債は、前連結会計年度末に比べて10.0%増加し、34,973百万円となりました。

### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて46.5%増加し、10,964百万円となりました。これは主として、資本金が1,268百万円増加し、資本剰余金が1,596百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、来期以降大幅な収益向上を計画しており、それに対する前倒しの投資を検討しておりますので、現時点で平成27年5月12日に公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、修正の必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は451,889千円減少しております。また、当第2四半期連結会計期間末の資本剰余金が327,789千円増加しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,686,542	11,048,064
受取手形及び売掛金	8,857,557	11,838,842
商品及び製品	3,474,978	3,816,031
仕掛品	29,201	103,929
原材料及び貯蔵品	451,819	474,632
その他	2,774,620	2,932,701
貸倒引当金	△574,850	△778,523
流動資産合計	23,699,870	29,435,678
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,741,824	5,191,730
土地	2,748,974	2,845,550
その他(純額)	1,951,319	1,983,550
有形固定資産合計	9,442,115	10,020,831
無形固定資産		
のれん	2,473,472	2,613,046
その他	846,659	872,489
無形固定資産合計	3,320,132	3,485,535
投資その他の資産		
投資有価証券	110,153	92,024
その他	2,742,052	2,911,116
貸倒引当金	△106,639	△104,730
投資その他の資産合計	2,745,566	2,898,409
固定資産合計	15,507,815	16,404,777
繰延資産	87,015	97,316
資産合計	39,294,701	45,937,772

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,226,157	2,499,776
未払金	2,938,723	3,067,666
短期借入金	1,706,286	3,081,150
1年内返済予定の長期借入金	4,360,975	3,949,103
未払法人税等	457,724	645,518
前受金	4,372,176	5,285,811
賞与引当金	86,365	118,801
返品調整引当金	77,083	88,591
その他	3,633,880	3,526,642
流動負債合計	19,859,373	22,263,062
固定負債		
社債	3,556,000	4,236,600
長期借入金	6,293,340	6,613,343
役員退職慰労引当金	4,158	-
退職給付に係る負債	48,914	72,329
その他	2,046,678	1,788,226
固定負債合計	11,949,091	12,710,499
負債合計	31,808,465	34,973,561
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	132,518	1,400,750
資本剰余金	221,769	1,817,790
利益剰余金	6,245,096	6,739,127
株主資本合計	6,599,384	9,957,668
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,333	△2,432
繰延ヘッジ損益	-	△7,213
為替換算調整勘定	-	2,801
その他の包括利益累計額合計	2,333	△6,843
新株予約権	21,425	18,666
非支配株主持分	863,092	994,720
純資産合計	7,486,236	10,964,210
負債純資産合計	39,294,701	45,937,772



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	18,411,266	25,811,852
売上原価	6,577,861	9,672,375
売上総利益	11,833,405	16,139,476
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	4,101,401	5,042,488
その他	7,653,354	9,572,433
販売費及び一般管理費合計	11,754,755	14,614,921
営業利益	78,650	1,524,555
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,481	4,989
匿名組合投資利益	39,701	—
その他	14,718	17,643
営業外収益合計	56,901	22,632
営業外費用		
支払利息	123,479	144,755
その他	27,397	109,623
営業外費用合計	150,876	254,379
経常利益又は経常損失(△)	△15,325	1,292,808
特別利益		
固定資産売却益	147,821	—
保険解約益	—	96,776
その他	4,572	9,697
特別利益合計	152,394	106,474
特別損失		
固定資産除却損	16,925	55,053
減損損失	11,741	35,641
子会社株式売却関連費用	—	16,109
その他	78,979	5,797
特別損失合計	107,646	112,601
税金等調整前四半期純利益	29,422	1,286,680
法人税、住民税及び事業税	367,728	508,480
法人税等調整額	△593,000	8,786
法人税等合計	△225,272	517,267
四半期純利益	254,694	769,413
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	33,400	△33,576
親会社株主に帰属する四半期純利益	221,293	802,990

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	254,694	769,413
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△384	△4,766
繰延ヘッジ損益	—	△7,213
為替換算調整勘定	—	2,801
その他の包括利益合計	△384	△9,177
四半期包括利益	254,310	760,236
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	220,555	792,281
非支配株主に係る四半期包括利益	33,754	△32,044

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	29,422	1,286,680
減価償却費	584,035	691,427
のれん償却額	128,015	158,911
貸倒引当金の増減額(△は減少)	107,183	196,699
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	—	△58,158
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,169	4,015
受取利息及び受取配当金	△2,481	△4,494
支払利息	123,479	144,755
匿名組合投資損益(△は益)	△39,701	—
保険解約損益(△は益)	—	△96,776
固定資産除却損	16,925	55,053
減損損失	11,741	35,641
子会社株式売却関連費用	—	16,109
売上債権の増減額(△は増加)	△1,418,158	△2,793,958
たな卸資産の増減額(△は増加)	△469,656	△435,820
仕入債務の増減額(△は減少)	175,377	181,527
その他	1,089,932	5,894
小計	338,284	△612,492
利息及び配当金の受取額	2,481	4,494
利息の支払額	△121,028	△184,022
法人税等の支払額	△258,036	△461,116
法人税等の還付額	111,801	10,589
営業活動によるキャッシュ・フロー	73,502	△1,242,547
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△31,267	△179,507
定期預金の払戻による収入	71,395	103,503
有形固定資産の取得による支出	△33,854	△534,144
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△84,157	△490,304
子会社株式の取得による支出	△19,095	—
出資金の回収による収入	14,425	—
敷金の差入による支出	△89,199	△185,575
差入保証金の回収による収入	30,492	58,400
保険積立金の解約による収入	—	134,302
貸付けによる支出	△200	△37,017
貸付金の回収による収入	12,455	11,973
その他	69,296	△91,276
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59,708	△1,209,646

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△173,049	1,364,594
長期借入れによる収入	2,900,000	3,226,000
長期借入金の返済による支出	△1,839,716	△3,391,000
社債の発行による収入	1,565,847	1,536,453
社債の償還による支出	△562,900	△693,900
株式の発行による収入	—	2,535,000
配当金の支払額	△214,898	△308,396
非支配株主からの払込みによる収入	—	113,585
非支配株主への配当金の支払額	—	△18,286
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 売却による収入	—	519,581
その他	△330,160	△236,667
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,345,122	4,646,964
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,718	△862
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,350,198	2,193,908
現金及び現金同等物の期首残高	4,137,751	8,383,964
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,487,949	10,577,872

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当社が発行した第1回新株予約権が第1四半期連結会計期間に行使され、同期間に連結子会社株式会社アイデアインターナショナル及びSDエンターテイメント株式会社の株式を一部売却し、また同連結子会社が発行した新株予約権が行使されました。この結果、同期間において資本金が1,268,231千円、資本剰余金が1,589,790千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,400,750千円、資本剰余金が1,817,790千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	美容・健康 関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンター テイメント	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,330,584	2,269,586	2,335,998	4,475,096	18,411,266	—	18,411,266
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	38,627	261,934	410,933	711,494	△711,494	—
計	9,330,584	2,308,213	2,597,933	4,886,029	19,122,761	△711,494	18,411,266
セグメント利益 又は損失(△)	203,082	△42,426	9,852	147,085	317,593	△238,943	78,650

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	美容・健康 関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンター テイメント	計		
売上高							
外部顧客への売上高	14,192,360	4,413,800	2,863,489	4,342,201	25,811,852	—	25,811,852
セグメント間の内部 売上高又は振替高	108,373	—	211,424	99,576	419,374	△419,374	—
計	14,300,734	4,413,800	3,074,913	4,441,778	26,231,227	△419,374	25,811,852
セグメント利益 又は損失(△)	1,983,542	△186,849	95,520	△34,081	1,858,131	△333,576	1,524,555

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

エムシーツー株式会社は平成27年5月12日付で発行済全株式を当社からSDエンターテイメント株式会社に譲渡したことに伴い、第1四半期連結累計期間より美容・健康関連事業からエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

株式会社Xioはゲームアプリ開発の重要性が増したため、第1四半期連結累計期間より美容・健康関連事業からエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

美容・健康関連事業であったミウ・コスメティックス株式会社は主要事業が介護事業であるため、経営管理の観点から第1四半期連結累計期間より同様に介護事業を行うSDエンターテイメント株式会社が属するエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第2四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「美容・健康関連」セグメントにおいて、(企業結合等関係)に記載の企業結合に伴い、当第2四半期連結累計期間にのれんが274,437千円発生しております。